

特 116

50

命名秘法



始



字116
50



三 佳 野 高 者 著

自序

姓名を離れて生命なく生命の存する處必ず姓名あり故に姓名を無視するは生命を無視するの徒にして姓名を輕んずる者は生命を輕んずる者と云はざるべからず

往時禮義を正し儀容自ら備はる者は姓名正しく氏素性美はしきと認たるも禮讓謙節を辨まえざる卑賤下僕の類は其の姓名を有せざりき時姓名の組織に依り吉凶禍福を斷すること行はれ是れに關する書冊亦

夥多しく刊行せられ居ると雖も概ね複雑にして家庭學として實際に適する者殆んど稀れなり書隸弘整堂主人深く之れを憂ひて餘に其書をせんことを托せらるるに依て余は茲に古書を資料として學び且又實地研究の果遂に本書を完成せり幸ひにして斯術研究の楷梯たるを得ば本懐



近正め

15.6.4

内交

の至り也

著者識

姓名と運命に就て

是れより姓名と運命との關係を講述せんとする其順序
 として著者の姓名哲學を研究せる出發點及び之れに對
 する意見を一言したいと思ふ古人の金言に名は体を顯
 わす又は名は實の寶なりとあり然れ共名は人の造り
 たる文字を以て書くに何故其の文字に依而運命を支配
 するか不思議として姓名と運命につき研究の歩を進め
 來れり

第一文字なるものは如何にして出来たりしかを知るに古書にも文字は世の中の象形を見て造りたるものが文字の根源なりとあり左に二三の例を示さば

○の象形より(日)と云字造り夕の象形より(月)と云字生れ

山の象形より(山)と云字成り又木なる字は立木の形状即

米を木とし水の流れ形を見て川の字を造り日と月と合

せばあかるき故に(明)なる字を造り東なる字は日は出て

木にかかりたる象形(杲)なる字は木の上に日のあるを象

形となし(杳)なる字は木の下に日の落たる形よりして造れり
以下省略

以上の如くして造りたるならば此の自然の象形より成りたる文字を用ふる限り其の文字の通りの運命を辿るに何らの不思議なし

次に姓名哲学なるものに心を寄せ易理を根本とせる書籍或は姓名に關するもの等をしらべしも皆一徳一失ある様に思ひしを以て尙深く姓名と連名の關係心理を研

研究せんと哲理性姓名學會に入り會長三田進康先生より
直接教授を蒙れり

抑々姓名學なるものゝ源を調ぶるに弘法大師が主唱し
秘密として眞言宗に傳へられし者を野州の盛典と云へ
る者の出版に成る磨光韻鏡法及び徳川家康公時代の淨
土宗怪僧天海僧正が顯わしたる命名秘法及び康燕字典
等の教を受け姓名の眞理ある事を認め然して數万人に
付き實地に當りて鑑定の結果姓名の支配を受け此姓名

の善惡に依て運命は幸共不幸共なり其の順路をたどる
と云ふ事の確證を得たる故を以て姓名は符牒にあらず
命名は大切である依て命名の場合には充分注意して良き
文字を選び命名せねばならん故に一般の人にも解り易
き様に命名の秘法を解く

命名秘法

これより本論に入り説かん

總ての物体は心があれば必ず象形ある象形があれば之

を組立つる材料には各々特有の性情がある象形を組立てるには釣合がある又象形ある以上は數がある是等を併せて全きものさなるのである故に姓名を作製するに左の如き順序に依り之れに文字を當はめ完全なる姓名を造り得べきである

一、姓名讀下しの意義

二、乾坤の組合

三、天地の配置

四、五氣の配合
五、劃數

以上を姓名哲學上五大原則と謂ふ

第一條 姓名讀下しの意義 意義は姓名學上最も重要條件にして意義透徹するを要す若し意義透徹せざれば假令他の條件具備する共不幸を免れず又他の條件具備せざるも意義徹底せば万難を排して成功す

第二條 乾坤の組合 乾坤は文字の奇數偶數に依るもの

なり偶數には●を附し奇數には○を附すものなり以
 上乾坤の組合せの良否は身体からだの健康けんこう不健康ふけんこうと運命うんめいの
 幸さい不幸ふさいを來きたすものにして乾坤調和けんけんてうわすれば身体健康からだけんこう
 して又發達はつたつするも否いななり時は病弱びやくじやくにして不幸ふさいなり
 第三條 天地てんちの配置はいち 配置はいちとは姓せいの頭字かぶじを天てんとし名なの頭かぶ
 字じを地ちとす天地てんちの配合はいごう順じゆんを失しし不良りやうなる時は百事調ひゃくじてう
 和わを欠かき苦辛くしん多く加かふるに病災厄難びやくあやくなんに遭遇ざうぐして信用しんぎやう
 を失しし不運ふうん不幸ふさいなるに到いたる又天地同數てんちどうすうなる時は分立ぶんりつ

離反りはん孤獨こどくとなり病災厄難びやくあやくなんは不順ふじゆんより一層いちじやう甚はなはたしく物
 事實行じじやうかう困難くわんなん多おほし幸さいひにして成功せいこうするものあれば健康けんこう
 を保たもち難がたし

第四條 五氣ごきの配合はいごう 五氣ごきとは木き火くわ土ど金きん水すいの五行ごぎやうなり
 此この五氣ごきの組合あはせ如何いかに依よりて其そのの人ひとの性質せいしやう善ぜん惡あく及まび
 身体からだの健康けんこう不健康ふけんこうとなる

第五條 劃數くわくすう 劃數くわくすうの吉凶きちゆうに依よりて其そのの人ひとの物質ぶつしつの有あ
 無なを支配しはいするものなり名なの劃數くわくすうは中年迄ちゆうねんぎを支配しはいなし

右の乾坤は一字姓二字姓三字姓の凶なり

以上の乾坤吉凶共に姓名哲學上各々名稱あり各異特有の支配あれ共本書の判断をなす目的にあらず故に省略す

五氣の組合せ吉凶を示す

水土木金	土土火金	火木金木	水水木土
火金木土	木金木土	金水木金	火火土木

右の組合せは吉之部

金金金金	火火火火	水水水水	木木火火
------	------	------	------

火火火水	金土土金	木火水土	木金土土
------	------	------	------

右の組合せは凶悪なり

五氣の解

文字には各々特有の性質あり其の區別は木火土金水の五行を以て表示したり
今左に其の區別を示さんに

カキクケコ

以上の發音は木性なり

タ	ナ	ラ
テ	ニ	リ
ト	ヌ	ル
	チ	レ
	ノ	ロ

以上の發音は火性なり

ア	ワ	ヤ
イ	井	イ
ウ	ウ	ユ
エ	エ	エ
オ	ヲ	ヨ

以上の發音は土性なり

サシスセソ

以上の發音は金性なり

ハヒフヘホ

マミムメモ

以上の發音は水性なり

文字を右の表に當はめさへすれば一切の五氣を知るこ
とが出来ゝる一字ごして滅れる文字は無いのである例へ

ば兄令右申民ごせば兄は〔カ〕の行なるを以て木性なり

令は〔ラ〕の行なるを以て火性なり右は〔ヤ〕の行なるを以て

土性なり申は〔サ〕の行なるを以て金性なり民は〔マ〕の行な

るを以て水性なり総て文字の發音は全部音に依るもの

なり尙實例を次に示さん

大隈重信

大星山良之助

高野万二郎

火土火金

火金土火金金

木土水金火

右の通りご知るべし

數理の吉之部

一、姓名ごしては事實に於て有り得べからざるも一は

万物の開姓無事平安の運格ごす

三、大事大業を遂行するに足る幸福を享受し立身出世

すべき幸運なり

五、自然に富貴利達は進中し長上の引立を受く

六、生涯中には必ず金満家ごなるに非らされは榮譽一身に集り來る

七、此の數は暗示を享受する時は内外の平和を缺く嫌あれども剛腹不屈不撓のため萬難を排し終りに成功するも他の四項の構成員備せざれば時に刑罰劍難の虞あり

八、磐根錯節をきり拓き萬難を排するの忍耐力強烈頗る

幸運なり

十一、心神優愁和合徳望天賦の幸福一身に集り殊に他家を繼承して此の數を得ば極めて良し

十三、萬難に不屈す勇往邁進するの氣魄ありて智畧才藝に秀て超然群を抜く立身數なり

十五、此の數は吉數中の吉數にして其の生涯は坦々たる道路を歩み易々として成功の域に達す可高運なり

十六、此の數を得ば中興の祖となり人の頭領となる成

功の運格なれども他の組織に不備あるか素行動作に謹慎を缺く時は劍難の虞あり星亨氏の如き好殷鑑ならずや

十七、此の數の暗示を享受し性質剛腹短慮の僻人言を容るくに吝なるがため兎角成功を妨ぐるも晩年成功をなす者多し

十八、此の數は刑罰劍難の虞なきにあらねど他の構成組織完全に具備して凶を去り自負心強く一存を貫徹

し大業を成就せしめ得るの吉數なり

二十一、利達榮進を荷ふ吉數にして殊に拔群領袖の運格を有し生涯中には必ず家を興し名を揚ぐ

二十三、吉數中にあれと中斷的の逆命を享受するが故に他の四項の構成完全なるを要す姓名學上五大原則完備せる此數の人は富貴榮進は微賤の身に集中す

二十四、萬難あれと之れを排除するの運氣に富み無形より有形を生じ幸福榮進の劃數なり

二十五、此數の暗示を受けて人ご兎角に平和を缺くの稍々傾きあれと英敏なる才氣迸り遂に成功す但し此の數を姓名合畫に於て得たる人は奇人多し

二十九、高運數にして順風に帆を孕ませるが如き數なり

三十一、後世揚名數にして商人なれば金満家となり凡て人の頭目となるべき運格なり

三十二、上運の數なれと勢に乗じて不可なり

三十三、旭日東天の象あるべき運數にして家運を隆大な

らしめ利達榮進意の如く貫徹すべし

三十七、勤勉不屈にして名を揚げ金満家となるべきの上運なり

三十九、此の數を得たる人の統計は智謀才異拔群にして幸福を一身に集中し其宏大なる徳を子孫に遺す

四十一、生涯中に必ず大高運來りて大名を擧ぐ

四十五、此の數は吉數と稱すれど變化強烈にして生涯中必ず一度は死生の間に没頭する事あるべし

若し他の構成組織が不良不完にして晩年の災禍に罹る時は最も恐るべき結果を呈するも構成上決點なくは大業をも貫徹すべし

四十七、人ご一致和合するの吉祥數にして幸福を享受す
四十八、人の顧問となり他を扶け自らを益するの幸運數にて上々運なり

五十二、此の數吉數に編入したれども大いに注意を要すべく正道を踏まずして邪曲の行あれば身を亡ぼすも

投機心強く機を見るに敏なれば成功する事早し

五十七、生涯の行路決して易々たるに非ず時に厄難來り

心膽を寒からしむる事に遭遇するも晩年必ず成功す

五十八、滅亡したる家を再興し富貴を得るの幸福數なり

六十一、金銀財寶は集り來れるの高運數なれと兎角一家

の平和を缺くの嫌あり

六十三、幸運數にして萬物を養成し譽を後世に遺するも

他の構成上の關係に因申し刑罰監禁劔難の處あり高

島嘉右衛門氏好殷鑑なり

六十五、此の數は長壽幸福を兩全せる數なり

六十七、此の數を得たる人は獨立獨歩して支障なく目的

を貫徹す

六十八、此の數は發明力に富み幸福立身數なり

七十一、苦心多きも晩年は幸福を得るなり

七十三、幸數あれと意志兎角微弱なるが多し

七十五、勢に任せて事を行ひて失敗を招けと自然の運數

は善良なり

七十七、晩年の幸運多くして中年までは良ならず

七十八、利達榮進して富貴を得るも晩年の運薄し

八十一、自然の幸福を享受し隆々として身を起すに至る

の高運數にて晩年大名を博す

數理の凶の部

二、短命夭死すべき凶悪中の凶悪にして病難不具廢疾に至らざれば破産をなす

四、此の數の暗示を享受し精神上發達を阻害し而して主として病身短命者多く終生困窮に了る

九、消極の數にして零位なれば大に忌避すべき凶悪數にして親に縁薄く然らざれば自己短命に終る

十、滅亡數にて純乎たる零位なり家を滅し災禍踵を接し一難去つて一過來る數なり

十二、此數は孤獨數とも稱し以外の災難に遭遇せざれば鰥寡孤獨とならざれば晩年は逆境に沈淪し困難多し

十四、萬事に不足不滿多く家族の縁薄く勞大にして酬少なり此の數短命ならざれば孤獨者多し

十九、幼年にして親を失ひ内外の平和を紊し困難辛苦交生じ前途に横はる障害除き難き運名なり

二十、大業は兎角に阻害ありて事志しこ齟齬し辛苦多し

二十二、意の如く物事進まんこしく逆行し辛苦多く殊に晩年に至りては大凶來るの處あり

二十六、此の數は陽極にして陰に入るの凶數中の凶にして生涯中頭角は決して顯れず水底に沈める石塊の如く浮むことなく終生困難なり

二十七、前運格良なれとも後運格頓みに衰退し鎖沈するが爲めに晩年に至り想は又失敗を招くことあり然れども養子に入り他家名を襲ひて此の數を成したる者は反對の結果を示すことあり

二十八、此の數を得たる中流以上に生れたる人は多くは

無能頼情となり家産を滅却すれと衰亡に傾きたる家に生れて此の數を得れば決して不良數に非ず

三十、此の數自立力皆無にして譬へ他の扶助引立により發達するも決して名を成し功を遂げ難き數にして此の數の人には最も大なる沈淪する時は形罰自殺他殺若しくは發狂することあるべし

三十四、貧困の家に生れて此の數を得れば吉なれと普通家庭に生れたる人は自ら幸福を失ひ終生困難するが大

志を抱き却つてそれが爲め身を滅亡に至らしむ

三十五、文學技藝を勵みて上達すべきも最上の扶助引立尠く困難多きも凶數中の吉數なり

三十六、亡滅數と稱し姓名學者の最も恐るゝ凶數にして譬へ青壯年時代隆盛なる運命の如き觀ある人雖も其の終りは必ず滅亡大困難をなし甚しきは刑死又は自殺或は他殺の難あるは多くの統計が立證して居る

三十八、此の數は獨立の氣に乏しく必ず従たるべく主た

らんさせば失敗極て早く功ありて名實擧らず多くは
平凡者にて偉人豪傑を出さず譬へ之ありとするも他
に理由ありて決して異例にあらざるなり

四十、凶數中の吉にして此數吉數中に編入すべき運格
あれと傲放高慢の暗示を享有するが爲め大失敗生じ
易く殊に刑罰劔難の慮あるが爲め凶數ごせり

四十二、此數困難ご奮闘して辛苦に終るの微運なり

四十三、才能あり學者技藝家に善良なる運格に適し概括

すれば淡泊無頓着なる人多く金銀に欠乏する事なれ
ども失財多く他の四則の構成不良なる時は殺傷刑罰
發狂者を出す事あり然れ共一度は必ず成功すべし

四十四、陽極より陰に入るの意あるが爲め大家を滅亡せ
しむべく或は滅亡の跡を繼承すべき非運の數なれど
極貧の家に生れ此數を得或は他の構成上の理由にて
稀に意外の大成功者を出すことあり

四十六、精力欠乏大困難ご終生闘ふべき運數なり

四十九、吉運來ることあるも須臾にして去り一度凶害
 來らば踵を接し殊に晩年に至りての凶は恢復の途は
 絶對になし

五十、凶數中の吉數にして生涯一度は隆盛時代ある
 べきも晩年に至り一身一家を亡すべく意外の災害來
 るか然らざるも家運頓に衰頽すべし

五十一、晩年に至れば必衰運となる

五十二、生涯の行路に障害多く破産滅亡者多し

五十四、凶數中の凶惡數にして生涯中一度は強盜難水
 火難等の災害あり大失敗多き非運なり

五十五、致富の運あれども生涯平安なる能はず病難にか
 かる事屢にして妻子とは離散し或は死別することあり

五十六、進取力に乏しき凶運の數格にして萬事意の如く
 ならず悶々殃々として世を了る

五十九、此の數は凶中の凶數なり

六十、意志定らず勇氣忍耐乏しく萬事支障多く何事も成功せず

六十二、此數を得たる人一戸の主となり漸次家運衰ふ

六十四、運氣に浮沈多くして一家圓滿なる事能はざる凶數なり

六十六、一身一家を滅亡し人に信用を失ひ又人に愛等はなし

六十九、病火盜難多し

七十、此の數の短命者多きは統計上明かにして殊に世に用ひらるゝ人稀なり

七十二、此の數は晩年に至り亡家の厄に遇ふ

七十四、實行力に乏しく即ち決斷の意志微弱にて大なる災害もなけれど大くは無能無智なり

七十六、凶中の凶夭死短命に非らざれば失業破産に至る
ことあり

七十九、節操なき人多く不信用のため立身せず

八十、此の數は隱居し始めて災厄を免るゝも然らざれば終生困難の運格數なり

五氣性情理解

〔木〕 性情は春の季にして陽氣熾なり姓名中に木性多き人又は名の頭字に木性を有する人は心勇み進んで退くを知らず前後を見ずに進むが故に勇氣はあれども物事治まることを不治故に後に至り大いに悔悟する事多し又婦人にしては男生的の意を有し相當の家

に生れたる人、雖も却つて吾が家を省みず自家を飛出し甚敷は賣婦の類に身を投ずる者多し兎角男女に不拘余り進むを知りて退く事を知らず實に危険を有する性情たり

〔火〕 性情は夏の性情にして春と同じ陽氣熾なる性たり姓名中に「火」の多き人又は頭字に火性の有する人は強剛の意を有し自分力強くして人と和せず物事に附て人に譲ること云ふ意更になく己れの意のみ貫徹すること

云ふ剛情心故意外の不利益を生ずる事多し然れ共物事に因りて初め捨てたる事も己れ善なりと意を變ずる時は又非常に熱心となり他より見るもの正氣の人には有らざる程にて人より笑を招く性たり何事も熱中するが故に順常を失し大災難に犯さるゝ人多し火の多き人は尙甚たし

〔士〕性情は四季の性情と云ふて平和にして能く人と親しみ交り厚く物事も前後の考へ深く實に良き性情た

り然れ共教育の如何に依り物好きとなり何事へも手を出して自他の事に頼まれもせぬ事までも手を出し大不名譽大損害を蒙る事あり又商業も一つの途を守れずして方々に手を出し一つも成就せず難義を重ぬる者多し土性多きは尙甚たし又は不具に罹る人多し〔金〕性情は秋の性情にして萬物成熟したる季節たり成熟したる者は藏もふの時たり世の中是れよりは寂寞の氣と化し物事衰ふる時たり故に隱の氣にして陽と

離れ隠にのみ心を用ふるが爲め何事も發達の意なく
 悲觀に陥るか又は自身他人と争ふの意生ずるも金多
 き人は不治症即ち肺に關する病に犯さるゝもの多し
 〔水〕性情は冬の性情にして世の中は陰氣にして寂寞た
 り故に水性多き人又は名の頭字に水性を有する人は
 他動的と云ふて自動的の「力」なし因て吾が家を相續せ
 ば滿三年又は五年目には親より請けたる財産の中ば
 を失ふ者なり又嫉妬心深くして己れを害し人を害す

る事多し水性多き時は尙甚たし又水は流水と云ふて
 流れる時は清水となり止まる時は濁水となる故に他
 動は流れるの意自動は止まるの意なり水性頭字にあ
 る人自家を離れ一家を成す時は必ず成功し財産を得
 るものなり又永く住居する時は災難交々歸來し終り
 には財産を失ふものなり財産を取止たる人は短命な
 り又短命ならざる人は相續人に男子なし男子ある人
 に限り財産なし財産と相續人と長命との三徳を有せ

ざる性情なり

如此各々自ら性情を有する者なれば選名の場合には充分に注意すべし組合せに因て大吉とも大凶ともなるものなり依て左に實例を示す

金三〇三
火田〇五
金進●十二
木康〇十一

姓名合割數
姓名合割數
三二八
三十三
十一割割割

金西●六
木岡〇八
金淳●十一
火五〇四

姓名合割數
姓名合割數
二十五
二十九割割割

木高●十
土野〇十一
木佳●八
金三〇三

姓名合割數
姓名合割數
三十二
三十一
十二割割割

右の通りの方式に依り作成すべし

例へば

金上〇三
火田〇五
金●十二
水〇十一

姓名合割數
姓名合割數
三二八
三十三
十一割割割

火中●四
土野〇十一
木●十二
金〇五

姓名合割數
姓名合割數
三十七
三十二
五割割割

火池●六
火田○五
金●十二
木○九

姓名合割數
姓名合割數

三十一割
三十一割

金石○五
木橋●十六
土○一
木●十

姓名合割數
姓名合割數

三十一割
三十一割

此の他は之れに準ずべし而して右の方式に依り選名せる命名に對して違反無きかを鑑定希望の御方様は別紙無料鑑定券に階書で氏名を書いて參錢切手封入申込みあらば鑑定なし御送り致します

姓名の割數を検するには最も正しき字典に據るべく五行の發音を查ぶること大切なるものなり於て左に之れを掲載せり

木性之文字

カキケケコ

公 貢 穀 空 洪 恭 旭 江 宜 義 希 古 袴 計 啓 虎 快 詣
圭 桂 檜 卦 吉 近 君 訓 建 憲 元 堅 見 看 改 行 光 宏

火性之文字

タチツヲト
ラリルレロ

ナニヌネノ

中 竹 禿 冬 知 智 利 呂 都 土 乃 來 對 退 隊 太 天 年

鐵壇蘭端學繚他長亮浪磔定領林臨直陵牒

土性之文字

アイウエオ
ワイウエヲ

ヤイユエヨ

伊肆移委位遺雄勇愛衛矮乙一始遠隱越養

藥王英榮永詠優幼山有宥奄厭應葉熊役

金性之文字

サシスセソ

松叢送綜宋燭衝衆縮施劑姉脂次示私志書

訴樹細制最歲眞質親信遷錢線雪層懺慘深

水性之文字

ハヒフヘホ

マミムメモ

福豐伏蓬奉皮備美肥浦布拜配枚妹民密

粉文物敗代片別慢半磬標房泊兵白璧梵買

一字性陰陽劃

源十三 平五 桂十 林八 楠十六 北五 間十二 後九 沼八 峠九 谷七 港十二 菅十二 岡八 星九

二字性陰陽劃

井上七 伊藤二十五 石川八 石田十 石丸八 入江八 生田十

猪俣三十一 今出九 稻葉二十八 稻本二十 印東十四 羽田十一 春山十二

早見十三 早川九 原田十五 蓮山十八 仁部十五 新野二十三 保科十八

- 遠 山十七 殿 部二十四 豐 田二十三 德 田二十 富 田十七 近 村十五 沼 田十三
- 大 澤十九 大 石八 大 谷十 大 崎十四 小 川六 尾 西十三 越 智二十四
- 渡 邊三十一 門 野十九 龜 井二十 金 井十二 金 谷十五 吉 井十 吉 岡十四
- 染 井十三 園 田十八 津 田十九 島 田十九 根 津十九 菊 地十八 中 田九
- 永 野十六 植 田十七 村 田十二 野 村十八 奥 平十八 黒 田十七 矢 野十六
- 柳 瀬二十八 的 場二十二 杉 野十八 仙 石十 森 田十七 平 野十六 平 田十
- 大 久保十五 長谷川十八 佐久間二十二 久保十七 小野田十九 喜田川二十一

三字性陰陽割數

男女共初名に忌むべき文字

頭徳 幸善喜松竹梅春夏秋冬茂雪霜濱角鹿熊留未豊中

馬酉午午甲乙

但改名に用ふるも差支へなし

不運の人

不健康の人

子寶の得られない人

之れ皆姓名の完全ならざる故なり依て改名をして運命

の開拓を計られるも可なれ共それは前名の如何に依り命
名方は多少異なれども本書は之れを畧す

尙又深く姓名哲學の眞理を研究し人事百般の鑑定及び
五氣並に數理の循環法を學びたき人は御申越あれば哲

理姓名學會本部會長三田進康先生へ御照會申上げ本會
獨特の初傳中傳奥傳の原理三冊を受研究する手續を成

す故に御申込ありたし

283
83

著者印

大正十五
大正十五

發行

無料鑑定券

和歌山縣名手町
弘整堂

無料鑑定券

和歌山縣名手町
弘整堂

二錢

三永之助

報社
堂
七六八八三番

無料鑑定券

和歌山縣名手町
弘整堂

無料鑑定券

和歌山縣名手町
弘整堂

半額券

和歌山縣名手町
弘整堂

半額券

和歌山縣名手町
弘整堂

半額券

和歌山縣名手町
弘整堂

命名及改名料一人ニ付金三圓ノ處

本券持參及封入申込者ニ限り半額トス

命名及改名料一人ニ付金三圓ノ處

本券持參及封入申込者ニ限り半額トス

命名及改名料一人ニ付金三圓ノ處

本券持參及封入申込者ニ限り半額トス

283
83

著者印

大正十五年五月十三日印刷
大正十五年五月十八日發行

著者	高野佳三
編輯者	村上光永
印刷者	角谷峰之助
印刷所	和歌山市茶屋之丁四番地 虎城日報社

定價一圓八十錢

送料十二錢

發行所 和歌山縣那賀郡名手町二〇七

弘整堂

振替大阪七六八八三番

命名及改名料一人ニ付金三圓ノ處

半額券

本券持參及封入申込者ニ限り半額トス

和歌山縣名手町
弘整堂

終

